

2002年2月1日発行(毎月1回1日発行)通巻66号 発行人/和泉 由起夫 平成9年2月27日 第三郵便物認可



画 / 塗矢邦夫



もっと飯能

「出来事一週間」「はんのう一点買い」「お仕事拝見します」など、もっと飯能を知って、愛して、楽しんでいただきたい!そんな地域密着情報番組です。是非御覧下さい。

提供: アイフルホーム、安藤木材、第4回ニューリビングフェア けやき館、優良車体整備加盟工場、わかば幼稚園(順不同)

(水) 6:00~など



市民の皆さんの情報番組

みんなのひろば

飯能のイベント、フリーマーケット、美術展など、たくさんの情報をお送りしています。

月~金 9:35~・土 8:35迄



飯能市役所 インフォメーション

飯能市役所秘書課広報広聴係より、市の行政に関する生活に密着した情報をお届け致します。

提供: 飯能市

月~金 9:50~・土 8:50迄



こんにちは! 郵便局です

私たちのまちの郵便局からのお知らせ
郵便局からのさまざまな最新情報を毎回元気に、
お送り致します。

提供: 飯能地域郵便局

(日) 夜 9:00~ など

ペルソナ講演会 「日本の教育のこれから」

1月27日(日)にPLSスクール・ペルソナ(柳町)で行われた講演会の模様を放送。

講師: 内田正真(ましまつ) (私立富士見中学・高校社会科教諭) 提供: PLSスクール・ペルソナ

24(日) 21:30~・26(火) 21:00~など

「That's! 郷土館」

(このコーナーは毎回、飯能の歴史・文化を紹介してゆきます)

「ぼやき」を聞こう!?



「伝宮寺与七郎当世具足」

「北条氏照さんが滅んだ。その前に仕えていた三田様の滅亡から30年もたっていないのに。俺の運も尽きたようだから地元へ帰って田畑でも耕すか...。」

これは、リストラの波にもまれる現代にも共通する話かもしれません。今から約400年前、宮寺与七郎という飯能周辺で活躍した武士がいました。彼は、今の青梅市にあった勝沼城を根拠とする三田氏に属し、「原(八幡町・原町) 松井田(松井戸) 葛見(久須美)」に所領をもっていました(大江家文書)。その後、三田氏が北条氏照によって滅ぼされる時期にその家臣となりますが、その北条氏も天正18(1590)年豊臣秀吉によって攻められ、与七郎が守っていた八王子城も前田利家(「トレンディー大河」の主人公) 上杉景勝などの軍勢によって落ち、彼は久須美に土着する道を選びます。彼が着用したと伝えられる鎧が残っていますが(写真) その彼をテーマとした講演会を行いますので是非おいでください。ひよっとするとその「ぼやき」が聞こえてくるかも。(〇)

講演会「宮寺与七郎と三田氏」
3/17日 午後2時~ 市民会館
2月15日(金)から郷土館へお申し込みください。



素木(すき)の会 その2
朝日新聞【2001.11.26】の暮らし欄「木の家に住む」で、輸入材におされてさっぱり使われなくなった国産材の木で家をつくる運動として「素木の会」が紹介された。西川材を使い地元の職人さんによってつくられた、美杉台の榎部さんと唐竹の本橋さんの家づくりの経緯や、会のメンバーである山の井上さん、製材の大河原さん、大工の清水さんらの仕事を通して、国産材の家づくりが森をよみがえらせるという。こうした動きの全国組織として「緑の列島ネットワーク」の発足を伝えている。

素木の会では、次の5原則「地球環境を考慮した住まいづくり。生活者の視点にたつ住まいづくり。百年持つ木を生かした住まいづくり。伝統技術を伝える住まいづくり。町並みを考えた住まいづくり。」を基本に木の家をつくっている。また、建て主(住まい手のプロ)と設計者(住まいを考えるプロ)と施工者(住まいを造るプロ)とが自立した関係で家をつくること、いい家をつくる必要条件と考えている。家を建てた方々が連携し合い、木の家をすばらしさを次の世代に伝えることが出来たらと思う。

吉野勲(建築家) 創夢舎・73-8788 主宰

- 1(金) ホソダ・ヨネイチ メルヘン画展~3/3(日)㊦
十滝歌音・日々つくし 2人展~27日(水)㊧
書道展~5日(火)㊨
彩の国レスキュー隊との合同訓練10:00~17:00 ㊩
ポランティア講座「子どもとの楽しい接し方遊び方」㊪
向隆土個展 木彫から自然石まで~10日(日)㊫
丘崎孝 コマ展~10日(日)㊬
- 2(土) 福井恵・樋口真紀 陶芸2人展~14日(木)㊭
大東幼稚園 書初め展~15日(金)㊮
大型すごろく 14:00~ 14:30~ ㊯
- 3(日) ふくろう市(毎月第1日曜日開催)㊰
節分遊び13:30~15:00 ㊱
子育てセミナー「家庭教育のポイント」14:00~ ㊲
- 6(水) アトリエ・ラバン 児童画展~11日(月)㊳
おはなしのへや11:00~11:30 ㊴
- 7(木) グランド・ゴルフ体験13:00~15:00 ㊵
天体観測会18:30~20:00 ㊶
- 8(金) ポランティア講座「救急法・読み聞かせ」㊷
大型かるたとり 13:30~ 14:00~ 14:30~ ㊸
9(土) あけぼの自然探検隊~冬の部~10:00~11:45 ㊹
10(日) 姉妹都市ブリア市より高校生来飯~18日(月)㊺
伝承あそび13:30~15:00 ㊻
子育てセミナー「コミュニケーション」14:00~ ㊼
- 11(月) 縄とび遊び13:30~15:00 ㊽
スプリングビューティフルコンサート ㊾
- 15(金) ポランティア講座「わたしたちができること」㊿
寺本さんカレーショップ~17日(日)㊽
- 17(日) 吉野峰峰 書道教室展 ㊿
子育てセミナー「コミュニケーション」14:00~ ㊽
新春落語会14:00~ ㊿
- 19(火) 阿須フレンドワーク 作品展~24日(日)㊽
内外から見た日本経済(リチャード・クー講演)㊿
社交ダンス初級者講習会10:00~15:00 ㊽
荻野直 アラジン雑貨(生活小物・アクセサリー・古布展)㊿
- 21(木) グランド・ゴルフ体験13:00~15:00 ㊽
天体観測会18:30~20:00 ㊶
- 23(土) 飯能まちづくり市民塾 ㊿
- 24(日) JIBOライブ ㊿
60歳のついでい13:30~ ㊽
応急手当講習会 上級救命講習8:30~17:00 ㊿
あじさい館フリーマーケット10:00~15:00 ㊽
子育てセミナー「仕事と子育て」14:00~ ㊿
- 26(火) 禅画の予定~3/3(日)㊽
- 28(木) 紅陽会 写真展~3/4(月)㊽

- お問い合わせ
あ: 飯能市立子ども図書館(稲荷町25-8TEL74-2414)
い: ギャラリー放哉(白子南16TEL78-2223)
う: ギャラリーテブコ(双柳354-4TEL73-7191)
え: 防災センター
お: 福祉センター(双柳371-13TEL73-0022)
か: コーヒー&ギャラリーパレット(栄町1-4TEL72-1893)
き: まるひろ飯能店(柳町22-11TEL73-1111)
く: あけぼの子どもの森公園(阿須893-1TEL72-7711)
け: 中央公園(問: 青木さんTEL72-8118)
こ: 中央公民館(飯能60-1TEL72-3678)
さ: 奥武蔵あじさい館(吾野72TEL78-2888)
し: (問: 自治文化課83-1900)
す: 飯能市市民会館(問: 市民会館TEL72-3000)
せ: 飯能信用金庫本店(栄町24-9TEL72-8111)
そ: 宮脇書店飯能店3F(問: 小久保さんTEL74-1104)
た: Cafe裏(仲町13-4TEL72-6862)
ち: 飯能市市民会館(問: 生涯学習課TEL73-2111)
つ: 防災センター(警防課TEL74-7224)
て: ゼフィールズ(仲町20-16問: 丸屋酒店TEL72-2754)
と: 郷土館(飯能258-1TEL72-1414)
な: ベベホール(仲町11-21TEL74-7777)
に: レイクサイドパーク宮沢湖(宮沢27-1TEL73-1313)
ぬ: 飯能市名栗村教職員組合事務所(TEL72-7754)
ね: 吉田屋呉服店(仲町21-25TEL72-4040)
の: 三越飯能店(南町8-27TEL72-8100)

芸術の力 桑山 和子

二〇〇二年は、小沢征爾氏が指揮したウィーンフィルのニューイヤークンサートに酔いしれてスタートした。勿論茶の間で居て同時中継されるテレビを観ての感動である。会場となったウィーン楽友協会からは、オーストリア人に交って、着物姿の日本人も映し出され、元旦の華やきが伝わってきた。

数年前にウィーンを訪れたことがある。会場も懐しく思い出される。歴史に培われた音楽や芸術の深さも知っている。そのウィーンで指揮者を務めたのだから、小沢氏の実力は勿論のこと、日本人としても快挙である。

テレビの良さは、その人の姿がアップで映し出され、心の動きもリアルに伝わることである。小沢氏の踊るようなあの独特な表情や手の動きが、シユトラウスのワルツやポルカの名曲を、共に楽しませてくれた。それ以上に氏が語った言葉「今まで音楽の力など小っぱな言葉と思っていたが、あの痛ましいテロ事件を始めとして、人間の心がゆがんできた今、音楽を通して心の豊かさや美しさを訴えていきたい」の言葉が忘れられない。話が変わるが、この言葉は文学でも同じである。「打木村治」という作家をこ存知であるうが、氏は東松山市唐子に生まれ、飯能に住み八十六才で亡くなった。代表作の「天の園」は、氏が唐子で過ごした子供時代の自伝的小説である。縁あつた東松山市の天の園の会から依頼を受け、晩年の打木村治の話をした。「天の園」の時代背景は、今から八十年前の頃であり、母親が苦勞しながら、景色でお腹がくちくなる子を育てていく過程が描かれている。会場を埋め尽した会員の顔を見ながら、「何故今打木村治なのかを考えた。多分この人達は今の小説を読んで二十世紀に危機感を抱いたのだから。文学はいつの時代でも生きるこの本質を突いている。今だから氏の小説が新鮮に映るのである。まさに二十一世紀は、自然への回帰が生きるテーマである。」

桑山 和子: NPO団体「めぐもり福祉たんぽぽ」(落合290) 代表

